

第27期 中間株主通信

(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
単元株式数	1,000株
定時株主総会	毎年6月下旬
株主確定基準日	定時株主総会 3月31日 剰余金の配当 3月31日 中間配当 9月30日 そのほか必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。
公告方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ先	電話 (0120)288-324(フリーダイヤル)
同 取 次 所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

Globality
Engineering
Maker

【ホームページ掲載資料のご提供】

当社の詳しい事業内容の資料をご要望の方には、当社ホームページ掲載の資料をご送付いたします。

資料請求のご連絡先：本社総務部 TEL：03-3340-5500
FAX：03-3340-5539



この中間株主通信は、環境に優しい植物性大豆油インキを使用しております。



株式会社 エスイー

証券コード：3423

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、当社の第27期中間期（平成19年4月1日から平成19年9月30日まで）における営業の概況ならびに中間決算につきましてご報告申し上げます。

(1) 当中間期の概況

当中間連結会計期間における日本経済は、景気は概ね好調に推移いたしました。しかしながら、建設業界におきましては、業界全体として引き続き厳しい受注環境が続いております。

このような経営環境のもと、当中間連結会計期間の売上高は45億62百万円（前年同期比5.7%増）となりました。

利益につきましては、販売費及び一般管理費の合理化により営業損失は68百万円（前年同期は54百万円の損失）となりました。営業外収益では韓国との合弁会社（㈱コリアエスイー）の好調な業績により「持分法による投資利益」が増加いたしました。これにより、経常損失は38百万円（前年同期は33百万円の損失）、中間純損失33百万円（前年同期は37百万円の損失）となりました。

なお、事業の種類別セグメントの状況は次のとおりであります。

①建設用資機材の製造・販売事業

この事業における分野別状況は次のとおりであります。

「環境・防災事業分野」におきましては、『落橋防止装置』や『アンカー』の売上高が前年同期比で若干減少いたしました。『KIT受圧板』・『探索』や環境防災関連の各種付属品の拡販により、売上高は33億82百万円（前年同期比0.1%減）とほぼ前年並みとなりました。

「橋梁構造分野」（当中間連結会計期間より、この分野の名称を従来の「社会インフラ分野」から「橋梁構造分野」に変更いたしました。変更の理由は、社会インフラの概念は一般には幅広く用いられており、環境防災もこの概念に含まれることから、事業分野をより明瞭にするためであります。）では、「AQストレスングシステム」を用いた「矢部川橋」や「鷹島肥前大橋」の斜材架設工事において、当社製品である『斜材

（FUT-H）』を拡販したことから、売上高を伸ばすことができました。これによりこの分野での売上高は10億99百万円（前年同期比36.9%増）となりました。

以上のことから「建設用資機材の製造・販売」事業の売上高は45億62百万円（前年同期比7.8%増）、営業利益は2億44百万円（前年同期比17.8%増）となりました。

②バイオマス関連事業

バイオマス関連事業におきましては、飼料化プラントの売上が下半期になることから、この事業における売上高は516千円（前年同期の売上高82百万円）、営業損失1,201千円（前年同期の営業損失248千円）となりました。

(2) 通期の見通し

今後の日本経済は好調な企業業績を背景に緩やかな安定成長を続けていくものと思われませんが、原油価格高騰の長期化や金利上昇懸念、サブプライムローン問題による金融市場への影響もあり、先行きに慎重な見方も出ております。

このようななか、当社グループにおきましては、経営戦略の柱であります『開発型企業』への取組みを更に進めるため『エンジニアリング本部』の設置等経営資源の集中を行い、当社の主力製品であります『永久アンカー』や『落橋防止装置』等の既存製品のシェア確保に加え、現場加工可能な引張型アンカー「スーパーフロテックアンカー」の製造・販売を開始することとなりました。これにより、通期の連結業績見通しにつきましては、売上高112億70百万円、営業利益5億56百万円、経常利益6億20百万円、当期純利益3億69百万円を見込んでおります。

下半期におきましても、より一層の経営努力を重ね、経営基盤の安定と業績の向上に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、今後ともご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年12月

代表取締役
社長 森元峯夫

連結財務諸表

中間貸借対照表(要旨) (平成19年9月30日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	7,733,101	流 動 負 債	4,417,586
現金及び預金	1,686,818	支払手形及び買掛金	3,404,706
受取手形及び売掛金	4,610,943	一年以内返済予定長期借入金	590,950
たな卸資産	1,072,761	一年以内償還予定社債	184,000
その他	365,799	未払法人税等	12,661
貸倒引当金	△ 3,221	賞与引当金	57,719
固 定 資 産	4,338,653	そ の 他	167,548
有形固定資産	3,269,051	固 定 負 債	2,090,585
建物及び構築物	794,744	社 債	110,000
機械装置及び運搬具	390,646	長期借入金	1,270,000
土地	1,926,947	退職給付引当金	348,740
その他	156,713	役員退職慰労引当金	338,410
無形固定資産	54,360	負 の の れ ん	18,434
投資その他の資産	1,015,242	そ の 他	5,000
投資有価証券	573,880	負 債 合 計	6,508,171
その他	452,120	純 資 産 の 部	
貸倒引当金	△ 10,759	株 主 資 本	5,446,816
		資 本 金	1,046,100
		資 本 剰 余 金	995,600
		利 益 剰 余 金	3,650,825
		自 己 株 式	△ 245,709
		評 価 ・ 換 算 差 額 等	116,426
		そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	41,548
		為 替 換 算 調 整 勘 定	74,877
		少 数 株 主 持 分	340
		純 資 産 合 計	5,563,583
資 産 合 計	12,071,755	負 債 純 資 産 合 計	12,071,755

- (注) 1. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。
 2. 有形固定資産の減価償却累計額 2,374,749千円
 3. 担保に供している資産
 建物及び構築物 649,954千円 土地 1,746,320千円

中間損益計算書(要旨) (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)

(単位：千円)

科 目	金 額
売 上	4,562,912
売 上 原 価	3,305,224
売 上 総 利 益	1,257,688
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	1,326,428
営 業 損 失	68,739
営 業 外 収 益	51,184
営 業 外 費 用	21,393
経 常 損 失	38,948
特 別 損 失	14,404
税金等調整前中間純損失	53,353
法人税、住民税及び事業税	7,900
法人税等調整額	△ 26,476
少数株主損失	1,545
中 間 純 損 失	33,232

- (注) 1. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。
 2. 1株当たり中間純損失 4円33銭

中間キャッシュ・フロー計算書(要旨) (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)

(単位：千円)

科 目	金 額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	349,589
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 327,129
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	305,376
IV 現金及び現金同等物の増加額	327,836
V 現金及び現金同等物期首残高	1,273,982
VI 現金及び現金同等物中間期末残高	1,601,818

- (注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

中間株主資本等変動計算書 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				株主資本合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	
平成19年3月31日 残高	1,046,100	995,600	3,837,667	△245,565	5,633,802
中間連結会計期間中の変動額					
剰余金の配当(注)2			△153,610		△153,610
中間純損失			△33,232		△33,232
自己株式の取得				△143	△143
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)					
中間連結会計期間中の変動額合計	-	-	△186,842	△143	△186,986
平成19年9月30日 残高	1,046,100	995,600	3,650,825	△245,709	5,446,816

	評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
平成19年3月31日 残高	55,527	60,636	116,164	1,885	5,751,852
中間連結会計期間中の変動額					
剰余金の配当(注)2					△153,610
中間純損失					△33,232
自己株式の取得					△143
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)	△13,978	14,241	262	△1,545	△1,283
中間連結会計期間中の変動額合計	△13,978	14,241	262	△1,545	△188,269
平成19年9月30日 残高	41,548	74,877	116,426	340	5,563,583

(注) 1. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。
2. 平成19年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

単体財務諸表

中間貸借対照表(要旨) (平成19年9月30日現在)

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	7,448,940	流動負債	4,320,572
現金及び預金	1,446,953	支払手形	2,544,262
受取手形	2,205,894	買掛金	781,813
売掛金	2,402,886	一年以内返済予定長期借入金	590,950
たな卸資産	1,036,058	一年以内償還予定社債	184,000
その他	360,369	未払法人税等	12,335
貸倒引当金	△3,221	賞与引当金	50,953
固定資産	4,283,560	その他	156,257
有形固定資産	3,281,775	固定負債	2,061,878
建物	722,423	社債	110,000
機械及び装置	399,424	長期借入金	1,270,000
土地	1,926,947	退職給付引当金	340,858
その他	232,979	役員退職慰労引当金	336,020
無形固定資産	53,495	その他	5,000
投資その他の資産	948,289	負債合計	6,382,451
投資有価証券	407,574	純資産の部	
その他	551,474	株主資本	5,309,879
貸倒引当金	△10,759	資本金	1,046,100
資産合計	11,732,501	資本剰余金	995,600
		資本準備金	995,600
		利益剰余金	3,513,888
		利益準備金	114,632
		その他利益剰余金	3,399,256
		別途積立金	3,400,000
		繰越利益剰余金	△743
		自己株式	△245,709
		評価・換算差額等	40,170
		その他有価証券評価差額金	40,170
		純資産合計	5,350,050
		負債純資産合計	11,732,501

(注) 1. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。
2. 有形固定資産の減価償却累計額 2,377,888千円
3. 担保に供している資産
建物 649,954千円 土地 1,746,320千円

中間損益計算書(要旨) (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)

(単位：千円)

科目	金額
売上高	4,550,342
売上原価	3,305,865
売上総利益	1,244,476
販売費及び一般管理費	1,292,560
営業損失	48,084
営業外収益	34,833
営業外費用	21,357
経常損失	34,608
特別損失	13,084
税引前中間純損失	47,693
法人税、住民税及び事業税	7,574
法人税等調整額	△16,844
中間純損失	38,424

(注) 1. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。
2. 1株当たり中間純損失 5円00銭

トピックス

大型斜張橋の斜材架設



矢部川橋斜材架設の様子

昨年（平成18年）より施工しております矢部川橋の斜材架設状況は、当社が開発した斜材ケーブル緊張管理システムにより、概ね当初の計画通り工事が進行しております。

また、大型斜張橋の新しい斜材架設の案件といたしまして、長崎県の鷹島肥前大橋での施工が始まりました。今後も着実に実績を積み上げ、新しい施工案件の受注獲得に全力で取組んでまいります。



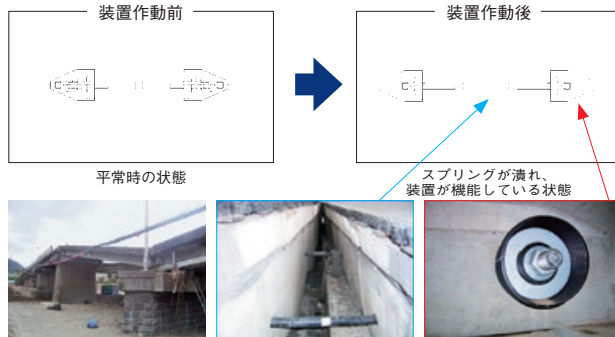
鷹島肥前大橋（主塔）



鷹島肥前大橋 完成イメージ図

落橋防止装置による国土防災事業への取組み

平成19年9月に神奈川県内の橋が台風による被害を受け、橋脚が沈み、橋桁がずれましたが、この橋には当社の落橋防止装置が取り付けられており、落橋防止装置が有効に機能し、橋桁の完全な崩落を防ぐことができました。



山口工場生産設備拡張

山口工場（山口テクノパーク内）の製造機能強化、増産のため、北側の隣接地4,200坪を取得し、生産設備の拡張をいたしました。



工場建物建設中の様子



完成した新工場

平成19年10月に新設工場の建設工事が完了し、11月6日に竣工式が執り行われました。

スーパーフロテックアンカーシステム製造販売開始

アンカー部門の市場シェア拡大を目指し、当社は「スーパーフロテックアンカーシステム」の製造販売を開始いたしました。



スーパーフロテックアンカーシステムの模型

スーパーフロテックアンカーシステムは、タイブルアンカー同様に耐食性、施工性、経済性に優れたアンカー工法であり、斜面の安定、擁壁の補強など様々な用途に適用できます。

また、このシステムの特長は、地盤へ力を伝達する構造が引張型アンカーであり、タイブルアンカーの特長である圧縮型アンカーと合わせ、多様なアンカー工法のニーズにより幅広く対応できるため、アンカー市場の60%のシェアを占めることとなります。また、KIT受圧板の販売機会拡大への相乗効果も期待できます。

ベトナムハノイ市に合弁会社設立

ベトナムにおける社会インフラ、交通インフラの開発、整備など社会資本の建設に貢献すべく、ベトナムの大学機関Consultancy Company of Universityと合弁会社を設立いたしました。

設計コンサルタント業務を中心とした橋梁エンジニアリング分野において高品質・低コスト・短納期の建設事業を目指し、操業を開始いたしました。



11月開催のキックオフミーティング

会社概要 (平成19年9月30日現在)

商 本 店 所 在 地	株式会社エスイー 〒160-0023 東京都新宿区西新宿六丁目3番1号 (新宿アイランドウイング) TEL：(03) 3340-5500 FAX：(03) 3340-5539 URL：http://www.se-corp.com/
創 設 代 表 行 業	業 立 者 数 場 所 内 容
発 行 株 式 数	8,350,000株
ジャ ス ダ ク 上 場	銘柄コード 3423
事 業 内 容	1. 環境・防災事業 ①地すべり防止・緑化システムなどの技術提供と製品の製造・販売 ②製品の健全度モニタリングシステムの開発・販売 ③地震による橋梁の桁落下防止システムの開発・製造・販売 ④その他、環境・防災に関連する技術開発 2. 橋梁構造事業 ①P C定着システム「SEEE工法」を中核とするトータルエンジニアリング ②P C橋梁に要する高性能ケーブルの開発・製造・販売 ③既設構造物の補修・補強エンジニアリング ④公共施設、既設建築物の耐震補強に要する高性能ケーブルの開発・製造・販売 ⑤沈埋トンネル用「耐震連結装置」の製造・販売 3. 建設エンジニアリング事業 ①斜張橋用斜材ケーブルの開発・製造・販売 ②国内外における斜材架設事業 ③施工業者への技術支援業務 ④国内外のコーポレーターとの共同研究開発、新製品・新工法開発 ⑤国際基準対応の建設コンサルタント ・OEM(客観的評価業務) ・CM(コンストラクション・マネージメント業務) 4. バイオマス事業 ①有機残渣処理装置の設計・製造・販売・据付およびメンテナンス ②一般産業用機械装置の設計・製造・販売・据付およびメンテナンス ③有機残渣処理装置を用いたバイオマス事業
取 引 銀 行	横浜銀行、三菱東京UFJ銀行、りそな銀行、みずほ銀行
関 係 会 社	株式会社アンジェロセック(連結) エスイーバイオマステクノ株式会社(連結) 株式会社コリアエスイー(持分法適用)

役員 (平成19年9月30日現在)

代表取締役社長	森	元	峯	夫
取締役副社長	大	津	哲	夫
専務取締役	竹	島	征	男
常務取締役	岡	本	哲	也
取締役	塚	田	正	春
取締役	久	賀	泰	郎
取締役	本	池	誠	孝
取締役	池	久	保	進
監査役	久	保	石	英
監査役	寺	澤	雅	男
監査役	菅	澤	喜	